

令和2年9月号

【発行元】

岐阜県福祉のまちづくり推進協議会
〒501-3246

関市緑ヶ丘2-5-78

TEL : 0120-337-301

FAX : 0575-24-5733

月刊 あったかいご通信

月刊「あったかいご通信」を発行する土地活用研究会は、地域密着の建設会社が福祉施設の開業をサポートする全国50社の国内最大級のネットワークです。毎月、業界の最新情報や成功事例をお届けします。業界全般の最新情報や経営のコツ、利用者募集や人材マネジメントなどリクエストも大歓迎です！

※記事引用 ・厚生労働省 ・国土交通省 ・㈱官公通信社 ・高齢者住宅新聞社 ・福祉新聞 ・日本経済新聞 他

「コロナ禍でも働けるように」 障害者らがキッチンカーでランチ 販売（東京）



東京都世田谷区で障害者が働くフレンチレストラン（就労継続支援B型）などを運営する社会福祉法人藍（大野圭介理事長）は、6月から週2回、キッチンカーでのランチ販売を始めた。メニューはキーマカレー（500円）。数量限定だが、行列ができる盛況ぶりだ。

レストランは新型コロナウイルスの影響で一時休業し、6月1日から時短営業で再開したものの、売り上げはコロナ前の7割まで落ち込んだ。

法人ではコロナの影響もあり、以前から計画を進めていた

「認定NPO法人ハンズオン東京」のキッチンカーの運営委託を受けた。同法人はインクルーシブな社会をつくる活動などを展開しており、学生ボランティア団体「かけわ」も含めた3者で連携して取り組んでいる。

キーマカレーはレストランで数日かけて仕込む。スパイス感があるが辛すぎないのが特徴。

「かけわ」が栽培した野菜の酢漬けも添える。

毎週水曜は世田谷区役所で販売。

障害者は呼び込みや食券の販売のほか、キッチンカー内では慣れた手つきでごはんやカレーをよそう。

トッピングにチーズが人気と分かれば変更するなどの工夫も凝らす。

この日で3度目というお客さんも

「おいしい」と絶賛。予定の60食を完売した。

区役所での販売は、複数の障害者就労支援事業所と合同で行っている。区の障害者就労支援担当、柴原誠さんは「障害者事業所の販売会が軒並み中止となり、売る場所がないと相談を受けていた。応援できればと場所を提供した」と言う。

大野理事長は「今後はメニューを増やし、販売も週4日になる予定。忙しくなるので体制を考えたい」と話す。

コロナの影響については「引きこもりがちな利用者が自粛でまた引きこもってしまう懸念がある。

第2波に備え、働き続けられるような形にしていきたい」と話している。